

ODAの点検と改善 2007

～より質の高いODAを目指して～

G8サミット・TICADIV(アフリカ開発会議)、新JICA発足の年に
公表される、「点検と改善」第3弾

ODAの質の改善への
不断の努力



国民に理解され、支持
される効果的なODAへ

→ この「点検と改善」作業を今後も定期的にも実施し、国民に説明

★「点検と改善 2007」～今後の取組のポイント

1. 戦略的なODAの実施のための援助政策の企画・立案

「選択と集中」の推進 →「国際協力重点方針」の早期策定
国際競争力のある援助実施に向け、新JICAの体制整備を進める
事業展開計画(ローリングプラン)の充実とそれを通じたプログラム化の推進
官民連携の推進、NGO連携タスクフォースの提言実施

2. コスト縮減や業務内容の改善を通じた事業の効率化

技術協力

JICA業務経費に係る包括的な効率化目標の着実な実施

有償資金協力

有償資金協力と関連のある調査等を新JICAの有償資金協力勘定の一部を活用して
実施し、案件形成の効率化・迅速化を追求

無償資金協力

新JICAの下での新たな無償制度の整備(迅速な実施決定、最適な工期・納期設定等)
事業参加者拡大への制度整備(標準契約書式の見直しのほか、想定できない事態へ
の対応や設計変更手続きの簡素化等につき検討)

ODAコスト総合改善プログラム ODA施設案件について15%程度のコスト
縮減率を目指す(平成20～24年度)

3. チェック体制の拡充と国民理解の促進

新JICAの評価体制の確立、国際機関を活用した援助の評価の実施
不正行為を行った企業に対する措置規程、環境社会配慮ガイドラインの新JICAの下で
の一本化
ODA広報TV番組の放送地域の拡大、報道関係者の現地視察の機会提供